

009

災害時における子どもの心のケアと 民間企業連携を通じた 迅速な寝具提供支援の実施

取組主体

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・
ジャパン

従業員数

91人

想定災害

全般

実施地域

石川県

能登半島地震において、被災者の生活基盤の早期回復を目指し、子どもの居場所づくりと心のケアや企業との協定による寝具提供など、複合的な支援活動を展開している。

1 取組の概要

- ・世界の子どもの支援する認定 NPO 法人ワールド・ビジョン・ジャパンは、世界各地での緊急人道支援の経験を生かし、日本国内で発生した大災害でも、地方自治体や企業、ボランティアと連携して支援活動を行っている。
- ・災害時には特に子どもの権利が守られにくくなるため、子どもの居場所づくりや心のケア、学校の再開支援などを中心に、家庭や地域コミュニティの復旧・復興を支えている。また、平時から災害時における子どもの心のケアについて普及啓発するための研修も実施している。
- ・そのような活動をする中で、災害時の仮設住宅における寝具の必要性を感じ、西川株式会社（以下、nishikawa）と、2016 年の熊本地震で連携して物資支援を行った経験をもとに、同年 7 月に「災害時における物資の供給に関する協定書」を締結した。
- ・この協定により、2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震では、短期間での寝具提供が可能となった。同法人は 1 月 7 日から石川県にスタッフを派遣し、支援活動を開始していたが、1 月 31 日、同県輪島市から仮設住宅に入居される方々への寝具の支援要請が届いた。仮設住宅入居者には、災害救助法に基づき生活必需品が行政から提供されるものの、行政の対応が間に合わず、外部からの支援が必要な状況であった。同法人はこの要請を受け迅速な支援を決定。仮設住宅への入居開始日である 2 月 3 日に間に合うよう、中 2 日間で 18 世帯 55 人の方々に寝具セットの提供を行った。その後も支援を継続し、6 月 25 日までに輪島市内の仮設住宅に入居した合計 1,060 人の方々に寝具セットを提供した。また、9 月に発生した能登半島豪雨で仮設住宅にも床上浸水の被害が発生したが、行政の要望を受けて 12 月 23 日に追加で 191 セットを提供した。
- ・加えて、子どものストレスケアのためのイベントの実施や、教育関係者に向けた研修、学校などの再開支援、子どもの遊び場の提供、文房具のプレゼントなど、被災地における子どもの心のケアに関する様々な支援を実施した。



避難所に設置された子どもの居場所の様子



提供された寝具セット



寝具セット搬入時の様子



寝具セットをお届けした時の様子

2 取組のきっかけと想い

- ・災害により日常を奪われ、避難所などで制約の多い生活を強いられてきた方々にとって、仮設住宅は日常を取り戻す第一歩であり、ほっと一息つける場所である。そのため、同法人としては仮設住宅の環境設備の重要性を感じ、まずはあたたかい布団でゆっくりお休みいただきたいとの想いから、nishikawa との協定締結に至った。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性等で工夫した点等）

子どもの心のケアに関する取組の展開

- ・子どもの心のケアの観点から寝具提供のほかにも下記の取組を実施している。
- ・2024年1月下旬、避難生活が長引き、余震も続く中でストレスを抱えている子どもたちのケアのため、思いっきり遊び、のびのびと体を動かしてもらうイベント「わくわくデー」を石川県七尾市、輪島市の学校や避難所など県内4か所で開催
- ・2024年2月上旬、七尾市と同県河北郡内灘町で、日々子どもたちと最も多く接し、子ども支援の最前線に立つ、保育士、保護者、キリスト教会の教会学校教師を対象に、PFA（心理的応急処置）研修を実施
- ・輪島市を中心に、学校・保育所・放課後学童クラブなどの再開にあたり必要な物資などの支援を実施
- ・2024年2月下旬から、輪島市の小学校で子どもたちが安心して安全に過ごせる居場所として、「チャイルド・フレンドリー・スペース（CFS）みんなで遊ぼう！」を開催
- ・また、子ども支援団体として、子どもの心のケアの観点から、寝具セットに加えて、入居世帯の子ども向けに、年齢別に、文房具などのプレゼントを準備し、手書きのメッセージを添えてお届けした。



子どもに向けた
文房具などのプレゼント

4 取組の効果

基礎的ニーズの充足を通じた心のケア

- ・災害時には、人々の衣食住といった基礎的なニーズを満たすことがまず重要とされており、寝具セットの支援は「住」の支援に該当する。基礎的なニーズの充足により、人々の尊厳を保護し、災害による苦痛を軽減することが期待される。

周囲の声

- ・「避難所では薄いマットや座布団を敷いて寝ていた。ようやく仮設住宅に移って、しっかりした布団で眠ることができるのがうれしい」（支援を受けた住民）
- ・「避難生活も1か月を超える中、最初の仮設住宅が完成し、18世帯55人の皆さんにご入居いただけたことは第一歩。その一歩を支援者の皆様からの物資をお届けしてスタートできた。ワールド・ビジョン・ジャパンさんにお声がけいただき、nishikawaさんにも協力いただいて、お布団を入れさせていただくことができた。入居された皆さんには、まずはゆっくり寝ていただき、そして、ご自身の生活リズムを取り戻していただければと願っている」（輪島市の担当者）

担当者の声

- ・災害は人々から一瞬で日常を奪ってしまいます。発災時だけでなく、避難生活の中でも様々なストレスにさらされ、心身ともに疲弊する日々が続きます。しかし、人はそれぞれに豊かな力を持っており、災害によって一時的にそれが弱められたとしても、適切な支援を受けることで多くの方が力を取り戻し、回復していくと私たちは考えています。あたたかい布団で安心して眠ることができる環境を一日でも早く整えることで、回復のきっかけの一つとなればと願っています。当法人とnishikawaは、今後も被災した方々の心身の回復に少しでも貢献できるよう、連携して災害支援に取り組んでまいります。

問合せ先

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 法人番号：4011105001465
 電話番号：03-5334-5350 FAX：03-5334-5359
 E-Mail：dservice@worldvision.or.jp URL：https://worldvision.jp/

動画

輪島市担当者の
メッセージ



サイト URL

能登半島地震緊急支援のページ

